

フルフェノクスロン (案)

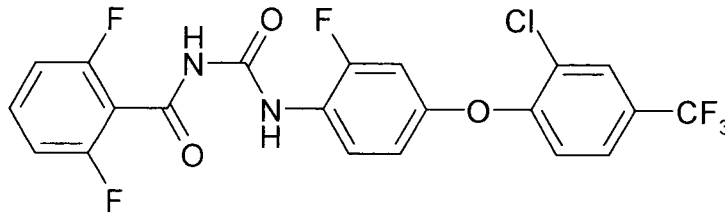
1. 品目名：フルフェノクスロン (Flufenoxuron)

2. 用途：殺虫剤

ベンゾフェニル尿素系殺虫剤である。昆虫の体内に取り込まれることにより、キチン質の合成が阻害されることで、幼虫の脱皮時に不完全な脱皮を促すことにより作用すると考えられている。

3. 化学名：1- [4- (2-クロロ- α , α , α -トリフルオロ-*p*-トリルオキシ) -2-フルオロフェニル] -3- (2, 6-ジフルオロベンゾイル) 尿素

4. 構造式及び物性



分子式 $C_{21}H_{11}ClF_6N_2O_3$

分子量 488.5

水溶解度 0.0043 mg/L (25°C)

分配係数 $\log Pow=4.01$ (25°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用方法は以下のとおり。

作物名となっているものについては、今回、農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

10.0%フルフェノクスロン乳剤

| 作物名 | 適用 病害虫名 | 希釈 倍数 | 散布液量 | 使用時期 | 本剤の 使用回数 | 使用 方法 | フルフェノ クスロンを 含む農薬の 総使用回数 |
|-------|--|---|------------------|------------|-------------|----------|----------------------------------|
| りんご | ナミハダニ リンゴハダニ | 2000 倍 | 200～700 L/10a | 収穫 14 日前まで | 2 回以内 | 散布 | 2 回以内 |
| | キンモンホソガ ギンモンハモグリガ | 2000～ 4000 倍 | | | | | |
| | ハマキムシ類 | 2000～ 6000 倍 | | | | | |
| なし | ハダニ類 ハマキムシ類 | 2000 倍 | | 収穫 21 日前まで | | | |
| もも | ハダニ類 | 4000 倍 | | | | | |
| | ハマキムシ類 | | | | | | |
| ネクタリン | モモハモグリガ | 2000～ 4000 倍 | | 収穫 7 日前まで | | | |
| | ハマキムシ類 | 4000 倍 | | | | | |
| おうとう | ハマキムシ類 ヒメシロモンドクガ | 4000 倍 | | 収穫 7 日前まで | | | |
| | かんきつ | ミカンハモグリガ | | | | | |
| かんきつ | ミカンハダニ | 1000～ 2000 倍 | 200～400 L/10a | 摘採 7 日前まで | | | |
| | 茶 | チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノドリヒメコバイ チャハマキ ヨモギエダシヤク チャノキイロアザミウマ チャノホコリダニ | | | 4000 倍 | | |
| キャベツ | コナガ アオムシ タマナギンウワバ ハスモンヨトウ ヨトウムシ ハイマダラノメイガ | 2000～ 4000 倍 | 100～300 L/10a | 収穫 14 日前まで | | | |

10.0%フルフェノクスロン乳剤（つづき）

| 作物名 | 適用 病害虫名 | 希釈 倍数 | 散布液量 | 使用時期 | 本剤の 使用回数 | 使用 方法 | フルフェノ クスロンを 含む農薬の 総使用回数 |
|---------------|--------------------------|-----------------|------------------|----------|-------------|----------|----------------------------------|
| はくさい | コナガ アオムシ ヨトウムシ | 2000～ 4000 倍 | 100～300 L/10a | 収穫14日前まで | 2回以内 | 散布 | 2回以内 |
| レタス 非結球レタス | ハスモンヨトウ オオタバコガ | 4000 倍 | | 収穫3日前まで | 3回以内 | | 3回以内 |
| だいこん | アオムシ コナガ ハイマダラノメイガ | 2000～ 4000 倍 | | 収穫14日前まで | | | |
| わさびだいこん | コナガ | 4000 倍 | | 収穫45日前まで | | | |
| トマト | マメハモグリバエ オオタバコガ | 2000～ 4000 倍 | | 収穫前日まで | 4回以内 | | 4回以内 |
| | ミカンキロアザミウマ トマトハモグリバエ | 2000 倍 | | | | | |
| ミニトマト | マメハモグリバエ オオタバコガ | 2000～ 4000 倍 | | 2回以内 | 2回以内 | | 2回以内 |
| | ミカンキロアザミウマ トマトハモグリバエ | 2000 倍 | | | | | |
| なす | ミナミキロアザミウマ | 2000～ 4000 倍 | | 開花期まで | 4回以内 | | 4回以内 |
| | マメハモグリバエ ハダニ類 | 2000 倍 | | | | | |
| ピーマン | オオタバコガ | 4000 倍 | | 収穫前日まで | 3回以内 | | 3回以内 |
| セルリー | マメハモグリバエ コナジラミ類 | | | 収穫14日前まで | | | |
| パセリ | ハスモンヨトウ | | | 収穫7日前まで | 1回 | | 1回 |
| ねぎ | シロイチモジヨトウ | | | 収穫14日前まで | 3回以内 | | 3回以内 |
| いちご | ハスモンヨトウ ミカンキロアザミウマ | | | | | | |
| きゅうり | ミナミキロアザミウマ | 2000～ 4000 倍 | 収穫前日まで | 4回以内 | 4回以内 | | |
| | ウリノメイガ トマトハモグリバエ | 2000 倍 | | | | | |

10.0%フルフェノクスロン乳剤（つづき）

| 作物名 | 適用 病害虫名 | 希釈 倍数 | 散布液量 | 使用時期 | 本剤の 使用回数 | 使用 方法 | フルフェノ クスロンを 含む農薬の 総使用回数 | |
|-----------------|--|-----------------|------------------|-----------|-------------|----------|----------------------------------|-------|
| すいか | ミナキイロアザミウマ オオタバコガ マメハモグリバエ | 2000～ 4000 倍 | 100～300 L/10a | 収穫 7 日前まで | 4 回以内 | 散布 | 4 回以内 | |
| | シロイチモジヨトウ | 4000 倍 | | | | | | |
| メロン | ミナキイロアザミウマ | 2000～ 4000 倍 | | | 3 回以内 | | 3 回以内 | 3 回以内 |
| | タバココナジラミ (シルバーリーフ コナジラミを含む) トマトハモグリバエ | | | | | | | |
| かぼちゃ | トマトハモグリバエ | 2000 倍 | | | 収穫前日まで | | 3 回以内 | 3 回以内 |
| しろうり | ウリノメイガ | | | | | | 1 回 | 1 回 |
| 非結球あぶら な科葉菜類 | コナガ アオムシ マメハモグリバエ | | | | | | 2 回以内 | 2 回以内 |
| てんさい | ヨトウムシ | 2000～ 4000 倍 | | | 収穫 7 日前まで | | 4 回以内 | 4 回以内 |
| | テンサイモグリハバエ カメノコハムシ ナミハダニ | 4000 倍 | | | | | | |
| アスパラガス | ハスモンヨトウ | | | | 収穫前日まで | | | |
| しゅんぎく | マメハモグリバエ アザミウマ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ | 2000～ 4000 倍 | | | 収穫 7 日前まで | | 2 回以内 | 2 回以内 |
| | | | | | | | | |
| にがうり | マメハモグリバエ ウリノメイガ アザミウマ類 | | | | 収穫前日まで | | 4 回以内 | 4 回以内 |
| なばな類 | ヨトウムシ類 ハモグリバエ類 | | | | 収穫 21 日前まで | | | |
| ほうれんそう | ハスモンヨトウ マメハモグリバエ シロオビノメイガ | 4000 倍 | 収穫 3 日前まで | 3 回以内 | 3 回以内 | | | |
| さやえんどう | シロイチモジヨトウ | | | | | 収穫前日まで | 2 回以内 | 2 回以内 |

10.0%フルフェノクスロン乳剤 (つづき)

| 作物名 | 適用 病害虫名 | 希釈 倍数 | 散布液量 | 使用時期 | 本剤の 使用回数 | 使用 方法 | フルフェノ クスロンを 含む農薬の 総使用回数 | | |
|---------------------|-------------------|----------|------------------|-----------|-------------|----------|----------------------------------|---|-------|
| そらまめ | マメハモグリバエ | 2000 倍 | 100~300 L/10a | 収穫前日まで | 3 回以内 | 散布 | 3 回以内 | | |
| さやいんげん | | | | | 2 回以内 | | 2 回以内 | | |
| 未成熟そらまめ | | | | | 3 回以内 | | 3 回以内 | | |
| 実えんどう | シロイチモジトウ | 4000 倍 | | 2 回以内 | 2 回以内 | | 2 回以内 | | |
| 未成熟ささげ | | | | | | | | | |
| 未成熟ふじまめ | ハスモンヨトウ | 3000 倍 | | アザミウマ類 | 4000 倍 | | 1 回 | 1 回 | |
| きく (葉) | | | | | | | | | |
| みつば | ハダニ類 キアゲハ | 2000 倍 | | 収穫 7 日前まで | 2 回以内 | | 2 回以内 | | |
| ブロッコリー | ハスモンヨトウ | 4000 倍 | | 2000 倍 | 収穫前日まで | | 3 回以内 | 散布 但し花穂の発生 期にはマルチフ ィルム被覆によ り散布液が直接 花穂に飛散しな い状態で使用する | 3 回以内 |
| みょうが (花穂) | | | | | | | | | |
| みょうが (茎葉) | | | | | | | | | |
| 食用さくら (葉) | アザミウマ類 | 4000 倍 | 200~700 L/10a | 収穫 7 日前まで | 2 回以内 | 散布 | 2 回以内 | | |
| くきちしゃ | ハスモンヨトウ オオタバコガ | | 100~300 L/10a | 収穫 3 日前まで | 3 回以内 | | 3 回以内 | | |
| しそ 食用トレニア はっか | ハスモンヨトウ | | | | 2 回以内 | | 2 回以内 | 2 回以内 | |
| チャービル ゆきのした | | | | | | | | | |
| つるむらさき | | | | | | | | | |
| とうがん | ミナミキロアザミウマ | 2000 倍 | 100~300 L/10a | 収穫 7 日前まで | 2 回以内 | 2 回以内 | | | |
| | | | 収穫前日まで | | | | | | |
| | | | | 収穫 3 日前まで | 3 回以内 | 3 回以内 | | | |

10.0%フルフェノクスロン乳剤（つづき）

| 作物名 | 適用 病害虫名 | 希釈 倍数 | 散布液量 | 使用時期 | 本剤の 使用回数 | 使用 方法 | フルフェノ クスロンを 含む農薬の 総使用回数 |
|---------|------------------------|------------------|------------------|------------------|-------------|----------|----------------------------------|
| 食用ぎく | マメハモグリバエ ミカンキロアザミウマ | 2000 倍 | 100～300 L/10a | 収穫 7 日前まで | 2 回以内 | 散布 | 2 回以内 |
| 甘長とうがらし | ミナミキロアザミウマ | 4000 倍 | | 収穫 前日まで | 3 回以内 | | 3 回以内 |
| バジル | ハスモンヨトウ マメハモグリバエ | | | 収穫 3 日前まで | 2 回以内 | | 2 回以内 |
| はつかだいこん | アオムシ コナガ ハマダラメイガ | | | 収穫 7 日前まで | 1 回 | | 1 回 |
| だいず | ハスモンヨトウ | | | 150～300 L/10a | 2 回以内 | | 2 回以内 |
| えだまめ | | 100～300 L/10a | | 3 回以内 | 3 回以内 | | |
| ししとう | オオタバコガ | 2000 倍 | 100～300 L/10a | 収穫 前日まで | 3 回以内 | | 3 回以内 |

6. 作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

フルフェノクスロン

② 分析法の概要

試料をアセトン又はジクロロメタンで抽出・濃縮後、ヘキサンに溶解し、アセトニトリルへ分配する。フロリジルカラム及びシリカゲルカラムで精製し、高速液体クロマトグラフィー（紫外分光光度型検出器）で定量する。

検出限界 0.002～0.2 ppm

(2) 作物残留試験結果

① りんご

りんご（可食部）を用いた作物残留試験（2 例）において、10%乳剤の 2,000 倍希釈液を計 2 回散布（500L/10a）したところ、散布後 14～29 日の最大残留量^{注1}は 0.342, 0.231 ppm であった。

りんご（可食部）を用いた作物残留試験（2 例）において、10%乳剤の 2,000 倍希釈液を計 2 回散布（400, 600L/10a）したところ、散布後 14～90 日の最大残留量は 0.265, 0.228 ppm であった。

りんご（可食部）を用いた作物残留試験(1例)において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布(600L/10a)したところ、散布後14~90日の最大残留量は0.20 ppmであった。

②なし

なし（可食部）を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布(240, 500L/10a)したところ、散布後14~30日の最大残留量は0.088, 0.144 ppmであった。

③もも

もも（果肉）を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布(400, 300L/10a)したところ、散布後14~21日の最大残留量は0.006, <0.005 ppmであった。

④みかん

みかん（果肉）を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の1,000倍希釈液を計2回散布(500L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量は0.025, 0.020 ppmであった。

みかん（果皮）を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の1,000倍希釈液を計2回散布(500L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量は4.17, 1.80 ppmであった。

みかん（果実全体）^{注2}を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の1,000倍希釈液を計2回散布(500L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量は0.629, 0.313 ppmであった。

⑤なつみかん

なつみかん（果肉）を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の1,000倍希釈液を計2回散布(500, 900L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量は0.053, 0.030 ppmであった。

なつみかん（果皮）を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の1,000倍希釈液を計2回散布(500, 900L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量は1.32, 1.1 ppmであった。

なつみかん（果実全体）^{注2}を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の1,000倍希釈液を計2回散布(500, 900L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量は0.40, 0.4 ppmであった。

⑥茶

茶（荒茶）を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計2回散布(400L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量は7.94, 7.66 ppmであった。

茶（浸出液）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計2回散布（400L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は0.06, 0.08 ppmであった。

⑦キャベツ

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布（100～180, 200L/10a）したところ、散布後13～14日の最大残留量は0.038, 0.022 ppmであった。

⑧はくさい

はくさい（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.145, 0.019 ppmであった。

はくさい（葉球）を用いた作物残留試験（4例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.052, 0.020, 0.026, 0.004 ppmであった。

はくさい（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は0.075, 0.018 ppmであった。

⑨メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は0.002, 0.002 ppmであった。

⑩てんさい

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は0.069, 0.030 ppmであった。

てんさい（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は3.21, 7.86 ppmであった。

⑪おうとう

おうとう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計2回散布（300, 400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.11, 0.66 ppmであった。

⑫ トマト

トマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計4回散布（250～300, 200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.11, 0.14 ppmであった。

⑬ いちご

いちご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.06, 0.14 ppmであった。

⑭ だいこん

だいこん（根）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200L/10a）したところ、散布後14～30日の最大残留量は0.02, 0.02 ppmであった。

だいこん（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200L/10a）したところ、散布後13～30日の最大残留量は2.46, 0.44 ppmであった。

⑭ セロリ

セロリ（茎）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計3回散布（150, 180L/10a）したところ、散布後14～22日の最大残留量は0.28, 0.97 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

セロリ（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計3回散布（150, 180L/10a）したところ、散布後14～22日の最大残留量は2.55, 8.12 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

セロリ（茎葉）^{注3}を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計3回散布（150, 180L/10a）したところ、散布後14～22日の最大残留量は0.85, 3.19 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑮ 葉ねぎ

葉ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150 L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は1.52, 0.12 ppmであった。

⑯ 深ねぎ

深ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計4回散布（200 L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.159, 1.04 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑰なす

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の1,000倍希釈液を計4回散布（250, 200~250L/10a）したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.18, 0.68 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑱すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計4回散布（250, 300L/10a）したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.03, <0.01 ppmであった。

⑲アスパラガス

アスパラガス（茎）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計2回散布（300, 280L/10a）したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.14, 0.15 ppmであった。

⑳しゅんぎく

しゅんぎく（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200, 160L/10a）したところ、散布後7~21日の最大残留量は5.60, 3.27 ppmであった。

㉑チンゲンサイ

チンゲンサイ（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、10%乳剤の1,000倍希釈液を計2回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は2.48 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

チンゲンサイ（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は0.46 ppmであった。

㉒ピーマン

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布（250, 200L/10a）したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.34, 0.50 ppmであった。

㉓こまつな

こまつな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布（100L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は3.08, 0.81 ppmであった。

⑭未成熟えんどう

未成熟えんどう(さや)を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計2回散布(300, 294L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.36, 0.30 ppmであった。

⑮未成熟そらまめ

未成熟そらまめ(子実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計3回散布(200, 150L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は<0.01, 0.02 ppmであった。

⑯そらまめ

そらまめ(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.03, <0.01 ppmであった。

⑰きゅうり

きゅうり(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計4回散布(185~300L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.14, 0.13 ppmであった。

⑱ほうれんそう

ほうれんそう(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計4回散布(150, 300L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は3.90, 4.53 ppmであった。

⑳レタス

レタス(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計3回散布(250, 285L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.16, 0.48 ppmであった。

㉑みずな

みずな(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布(200L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量は3.26, 2.68 ppmであった。

㉒未成熟いんげん

未成熟いんげん(さや)を用いた作物残留試験(2例)において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布(300, 150L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.48, 0.39 ppmであった。

③③しろな

しろな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は2.19, 1.20 ppmであった。

③④みつば

みつば（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は5.88, 3.80 ppmであった。

③⑤パセリ

パセリ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計1回散布（250, 200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は4.80, 3.25 ppmであった。

③⑥大豆

大豆（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の1,000倍希釈液を計2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は0.064, 0.047 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

大豆（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計1回散布（250, 200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。

③⑦えだまめ

えだまめ（未成熟大豆）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計2回散布（250, 200L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は1.09, 1.54 ppmであった。

③⑧ネクタリン

ネクタリン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布（270, 300L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は0.18, 0.22 ppmであった。

③⑨未成熟ささげ

未成熟ささげ（実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計2回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.1, 0.3 ppmであった。

④① ミニトマト

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布（300, 200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.19, 0.10 ppmであった。

④② ししとう

ししとう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計3回散布（307, 350L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は1.14, 0.49 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

④③ ブロッコリー

ブロッコリー（花蕾・果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計2回散布（300, 200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は1.59, 0.20 ppmであった。

④④ みょうが

みょうが（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は<0.04, <0.04 ppmであった。

④⑤ 未成熟ふじまめ

未成熟ふじまめ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の3,000倍希釈液を計2回散布（200L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は0.3, 0.3 ppmであった。

④⑥ かぼちゃ

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計3（170L/10a）または4回散布（150L/10a）したところ、散布後1～15日の最大残留量は0.04, 0.02 ppmであった。ただし、4回散布した試験は、適用範囲内で行われていない。

④⑦ しろうり

しろうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の2,000倍希釈液を計1回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は<0.05, <0.05 ppmであった。

④⑧ リーフレタス

リーフレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計4^{※4}または3回散布（200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は2.34, 1.22 ppmであった。

④⑧ サラダ菜

サラダ菜（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計1回散布（150～200, 200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は3.6, 1.8 ppmであった。

④⑨ すだち

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%乳剤の1,000倍希釈液を計2回散布（500L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は0.60 ppmであった。

④⑩ かぼす

かぼす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%乳剤の1,000倍希釈液を計2回散布（640L/10a）したところ、散布後7～20日の最大残留量は0.38 ppmであった。

④⑪ わさびだいこん

わさびだいこん（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計3回散布（120L/10a）したところ、散布後45日の最大残留量は0.01, <0.01 ppmであった。

④⑫ 食用さくら

食用さくら（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計2回散布（120L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は2.74, 3.08 ppmであった。

④⑬ しそ

しそ（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計2回散布（200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は5.54, 4.73 ppmであった。

④⑭ くきちしゃ

くきちしゃ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.22, 0.26 ppmであった。

④⑮ バジル

バジル（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%乳剤の4,000倍希釈液を計2回散布（200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は2.50, 3.10 ppmであった。